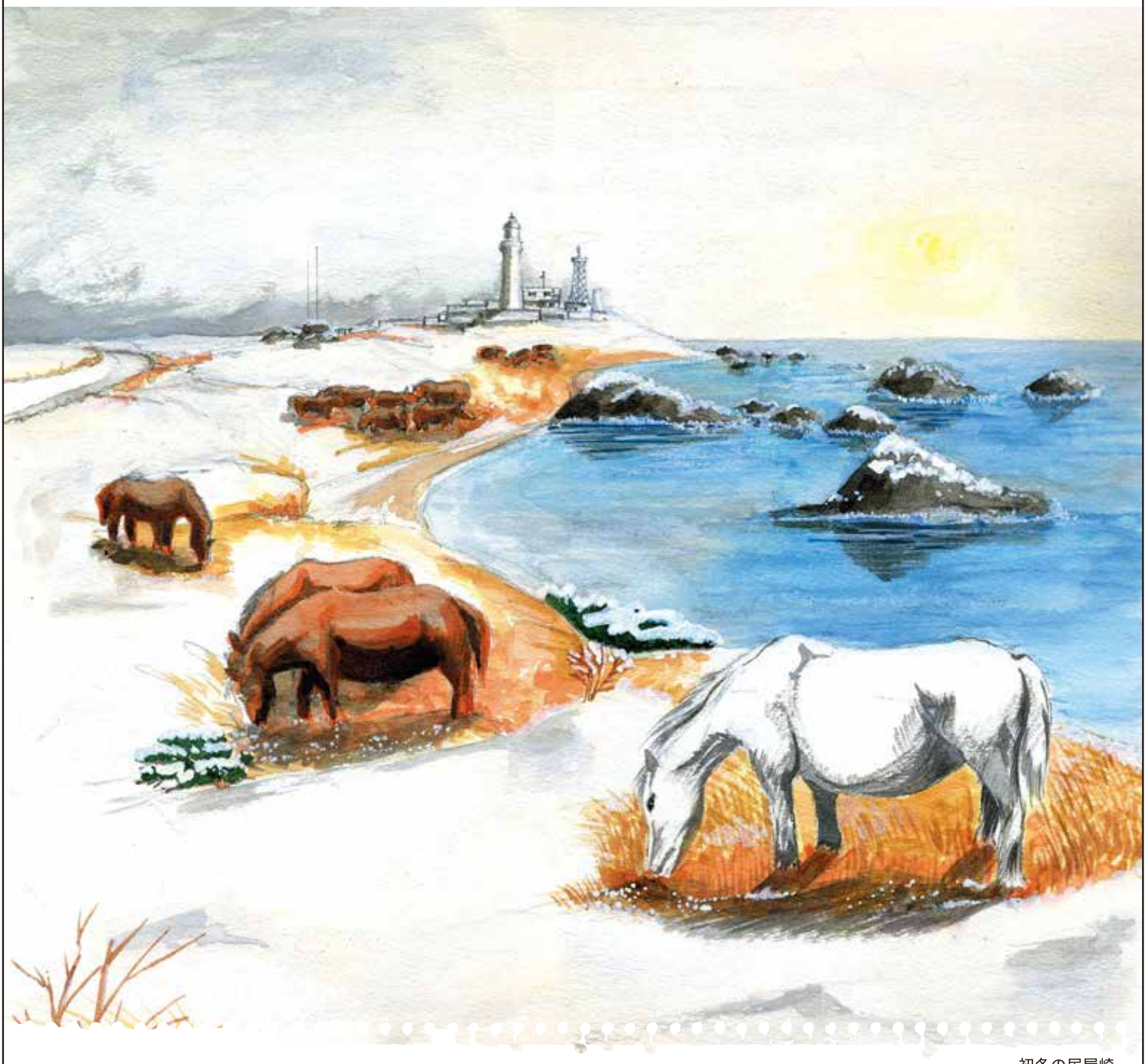
しおさい



初冬の尻屋崎

【主な内容】

- 特集記事「シリーズふるさと見聞録」：鹿橋
- 「明日へのかけはし」：東通村商工会青年部
- 「ファイト!わんぱく」：東通村尻屋小学校
- クローズアップ「こんにちは元気さん」：村田　睦夫さん
- 「地元の特派員レポート」
  宮川　明日香さん
  下川　史代さん
  宮本　久男さん

vol.6
平成20年12月発行
東北電力(株)東通原子力発電所

特集記事

シリーズふるさと見聞録

東通村29の集落の特徴的風物や人物を探る！

鹿（ししぱし）橋

能舞の師匠どころとして知られる、稲作中心の集落！

田名部川の上流、山あいの中に平地が広がる、米作りの盛んな地域が鹿橋です。もとは蒲野沢の枝村で、今から約600年ほど前に、太田、宮川、真手、吉田、山崎姓の人々によって築かれたと伝えられています。

集落の中心には「砂取坂池野神社（すなとりさかいけのじんじゃ）」が祀（まつ）られ、9月27日に秋まつりを開催。村のシンボル的存在の千年桂がある「石神様」では、4月27日に春まつりを行っています。

基幹産業は約8割が農業で、稲作に励み北海道米の「きらら399」など極早稲種が作付されています。あとの2割は畜産で、黒毛和牛の繁殖が行われています。このほか共有の財産である山林も保有しています。

かつて自給自足が行われていた頃は、6ヶ月働けば6ヶ月休むというのんびりとした暮らしが営まれていたそうです。

能舞の師匠どころとしても知られ、演目のひとつである「かねまき」は「ハイドーハ」というかけ声とともに迫力ある舞いが特徴です。1月27日の権現様を神社に納める幕納め、「ヤメボイ」という厄払いのワラ人形を立てる春祈祷、村まつりの他、依頼があればイベントなどでも能舞を披露しています。

部落会を中心に、能舞を伝承する青年会、ボランティアの会、老人クラブ、ババ会などがあり、何事にも協力して取り組む、あたたかい集落です。

砂取坂池野神社

熱心に能舞を指導

かねまき

青年会会長
真手（まて）　義照（よしてる）さん（47歳）

能舞を伝承する青年会は、現在会員が15人、師匠13人。実際すぐに出てくることができるのは8人ですが、イベントがあれば師匠にお願いし手伝ってもらいながら様々な行事をこなしています。鹿橋の能舞は、舞いに勢いがあり、囃子の強弱もメリハリが合って最高です。舞いを生かす盛り上げ方がうまいのです。この素晴らしい能舞をいつまでも絶やさないため、小中学生に指導し正月に発表するなど、後継者の育成にも力を注いでいます。

青年会娯楽副部長
吉田（よしだ）　悟（さとる）さん（34歳）

地区に伝わる能舞で、舞込みのプログラムを作ったりイベントの運営を行ったりしています。「かねまき」という演目では、狂った娘を真っ当な人間に戻す「別当」の役を演じています。能舞は18歳から取り組み30歳で「かねまき」に挑みました。舞うときはいつも無心で取り組んでいますが、舞いにはこれでいいということはありません。稽古の内容が本番に現れるので、常に師匠の熱意を感じながら、その教えを肝に命じています。伝統を絶やすことなく受け継いでいきたいと思います。

鹿橋を訪ねて

能舞と稲作が盛んな団結力に優れた集落

鹿橋は、東通村のほぼ真ん中、四方を山に囲まれた田んぼの多い集落です。団結力に優れ、道路の補修や下水清掃など人足作業は、必ず各家々から1人が出て協力します。今後は各団体が責任を持って、後継者育成や教養面をのばすなど活動を展開しなければならないと思います。能舞の師匠どころとして頑張っており、これからは下北三味線や手踊りなども伝承していきたいと思っています。

鹿橋部落総代
太田平苗（おおたへいなえ）さん（69歳）

東通村の天然記念物「千年桂」

鹿橋集落の南側にある、根の絡み合った桂の大木が「鹿橋千年桂」です。文治3年（1187）、村人が桂の下を通りかかると見知らぬ女の子が現れ「我を神として祀（まつ）らば村に幸あらん」といって消えたそうです。不思議に思った村人がそこに行ってみると、一つの石塊がありました。（その女の子が）桂の根元から湧き出る冷水を飲んでいたことから、水の精霊に違いないと祠（ほこら）を建てて祀（まつ）り、石神様同様に崇（あが）めたと伝えられています。

能舞の師匠
山崎長次郎（やまざきちょうじろう）さん（78歳）

能舞はかつて伝承する人が減り困った時もありましたが、今は息子や孫の世代が頑張り、後継者も育ち盛り上がってきています。戦後間もない頃は「付き合い舞」というのがあり、各部落に能舞を演じに出向いていました。今とは違い車もない時代、馬で送ってくれたりと人情にあふれ、厳しくも道すがら舞いを教えてもらったものでした。現在、私は3世代一緒に住んでいます。家庭の和合は何より大事で、家庭が良くてこそ部落は発展すると信じています。

能舞の師匠
宮川（みやかわ）　繁（しげる）さん（74歳）

東通村の各地に伝わる能舞。鹿橋の能舞は地区の誇りです。どこにも負けないという強い気持ちで、若い人たちに教えています。自分たちが若い頃の稽古はとても厳しいものでしたが、今はあまり厳しすぎると若い者がついて来れなくなるので、笑顔を心がけ、時には優しく、また悪いところがあれば即座に指導することも必要だと思います。鹿橋の能舞は、激しさの中に柔らかさが表現された素晴らしい舞いです。

明日へのかけはし

東通村商工会青年部

商売で村を元気にしたい！

東通村商工会青年部の皆さん

小学生が模擬店の経営を体験する「チャレンジショップ」を開催しているのが、東通村商工会青年部です。

メンバーは、村内で食堂やガソリンスタンドなどを営む40歳までの13人。チャレンジショップは、東通で商売をする仲間を増やし、子どもたちにお金の大切さを伝えたいと、２年前に村独自でスタートさせ、今では県内全域へと波及しています。今回挑戦したのは老部小学校6年生の8人です。

1日目、商工会青年部のメンバーが商売のしくみとして、仕入れや販売、利益について説明。小さな会社を作り、社長は何をするのか、広報は、製造はどんな仕事をするのか、個々の責任について話しました。そして仕入れた道具を使い、販売するキャンドルやストラップを作りました。

2日目は「トントゥビレッジ秋の感謝祭」で出店です。子どもたちは青年部の指導を受け「いらっしゃいませ」「キャンドルはいかがですか」と声をかけて販売し、お金を得ることの大変さを実感しました。

大槻淳青年部長（おおつきまこと）は「子どもたちがいきいきとした表情で頑張っている姿を見て、やってよかったと思います。商工会青年部は、村を元気にしたいとの思いから村のイベントに出店したり、様々な活動を展開しています。もっと入会者を増やし商売を発展させるとともに、村内の経済を盛り上げていきたい」ですと語っていました。

部長の
大槻さん

出店の準備をする子どもたち

いよいよ
チャレンジショップのオープンです

ファイト！わんぱく

最後の学習発表会でよさこいを熱演！

東通村尻屋小学校

今年度で創立134年の歴史に幕を閉じる、東通村尻屋小学校。10月26日には最後の学習発表会が行われ、よさこいソーランを堂々と披露し、家族や地域の人々から大きな拍手を浴びていました。

よさこいソーランを発表したのは、3年生から6年生までの21人。4年前から毎年発表しているもので、低学年は「3年生になったら自分たちも踊れる」と楽しみにしてきました。

練習は坂本睦子（さかもとむつこ）先生指導のもと、授業の一環として行われました。3年生以外は振付けを覚えているので、背筋や手を伸ばす、膝を曲げる、顔を上げるなどポイントと、隊形移動を中心に練習。6年生全員がリーダーとなって模擬演技もしっかりと行いました。

6年生の5人は「踊りは疲れるけど楽しい。最後だからみんなに喜んでもらえるよう頑張りました」と笑顔を見せてくれました。指導にあたった坂本睦子先生は「全員が一生懸命頑張ったので有終の美を飾ることができました」。森山文敏（もりやまふみとし）校長は「みんなを引っ張ってくれた6年生の5人に感謝です。今後も何事にも責任を持って、一人ひとり成長して欲しいと思います」と話していました。

熱心に練習する子どもたち

見事なよさこいソーランの舞い

（後列左から）濱端美有奈（はまばたみゆな）さん
坂本　藍（さかもとあい）さん、坂下玲美（さかしたれみ）さん

（前列左から）
南谷瑞樹（みなみやみずき）くん、石田航大（いしだこうだい）くん

クローズアップ むらびと 元気さん

東通の気候を活かし、夏秋イチゴを栽培！

JAはまなすイチゴ部会　部会長 村田睦夫（むらたむつお）さん（48歳）

村内で元気に活動する人を紹介する「こんにちは元気さん」。今回は、東通村で初めて夏秋イチゴの栽培に取り組んだ村田睦夫さんにお話を伺いました。

東通村の冷涼な気候を活かし、真っ赤で甘い「ペチカ」という品種の夏秋イチゴを生産し、仲間を増やしているのが村田睦夫さんです。

東通村田屋で生まれた村田さんは、県立むつ工業高等学校を卒業後、むつ市にある大魚市場に入社。18年間競り人として働きましたが、農家の長男でお父さんも70歳となったことから家業を継ぐことにしたそうです。

農業を始めるにあたり、市場勤めの経験から野菜だけの単品では駄目だと考え模索している時、はまなす農協組合長から「夏場のイチゴは品薄となり、値段も高く取引されている」と聞き、挑戦することにしました。

最初に取り組んだのは「とよのか」という品種のイチゴです。3年間で1千万円投資、日照時間を制限して育てましたが、収穫はゼロ。それでも「これからの時代、稲作や野菜だけでは農業をやっていけない」と各地を視察します。そんなとき、北海道の北見で見つけたのが「ペチカ」という品種の夏秋イチゴでした。

初めての試みだったので、弘果（株）と開発した北海道の種苗会社から指導を受け、100坪のビニールハウス3棟から始めました。

「ペチカ」は秋定植栽培の場合で9月末に植えて6月からの出荷、春定植栽培では5月に植えて8月からの出荷となります。夏場は1パック市場価格で800円という高値で取引されるそうです。栽培方法を相談するにも、最も近い所で旭川や盛岡。村田さんは本を取り寄せるなど努力を重ね、「ペチカ」を栽培した翌年には、株式会社ホーブ主催の「ペチカ」栽培で最優秀生産者賞を受賞しました。

今から6年前、たった一人で始めた「ペチカ」の栽培も、農協にイチゴ部会を作って仲間を増やし、今では9人で年間15万パックを出荷。最盛期には部会で1日千パックを出荷しています。収穫されたイチゴは、種苗メーカーを通じてケーキやデザートなど、業務用に使われているそうです。

夏秋イチゴ「ペチカ」の苗

「ペチカ」の花と果実

村田さんは「ゼロからのスタート。みんなに反対され、資金繰りも大変でしたが、ようやく軌道に乗せることができました。夏秋イチゴは津軽でも八戸でも暑くて作れない、旭川でも夏場は休むことがあり、東通の気候にぴったりの作物。何より嬉しかったのは、一緒にやりたいという仲間が増えたことです」と話します。

イチゴ作りの魅力について「子どもでイチゴが嫌いっていう人は、まずいないでしょう。そのまま食べられる果物だし誰もが喜んで食べてくれる。それに他では採れない時期に、ここ東通で自分らが収穫しているという自負がある」と胸を張ります。そして子どもたちのために、出荷の最後となる12月には村内の幼稚園児をハウスに呼び、無料でイチゴ狩りをさせているのです。

「来年は『ペチカ』より形の良い『サンタペチカ』を栽培します。やがては20人位にまで仲間を増やし、イチゴを東通の特産にしたい。直売所も作り、みんなにイチゴ狩りを楽しんでもらいたい」と、力強く語っていました。

スタッフにより丁寧に収穫されたイチゴは、箱に一つひとつ綺麗に並べられていきます

東通村各地区の皆さまから心温まる情報をお届けします。

地元の特派員レポート

東通村東栄在住
東通小学校（6年）
みやかわあすか
宮川明日香さん（12歳）

私の住む東栄

私の住む東栄は、開拓50年だそうです。加えて東栄は酪農のために開拓された土地で名前の由来は「東に栄える土地だから」です。やはり酪農のためにできた土地だけあって、昔は青森県内からたくさんの人が来て牧場をかまえていたそうです。

でも今では、昔いた人は去ってしまい、酪農を続けている人が少なくなってしまいました。なので、住んでいる人が少なくて少しさみしいです。

それでも東栄はとても素敵なところです。道ばたには花が咲き、坂道から見える景色はとても綺麗です。都会のきらびやかな華やかさはなくても、静かなところ特有の美しさがあります。

人口が少なくても、酪農が盛んで、自然が豊かな東栄が私は大好きです。

開拓当時の住宅兼畜舎の基礎工事風景

東栄開拓45周年記念碑
（平成16年8月建立）

魅力たっぷりの「向野」

向野は、皆さんがなにげなく通っている県道6号線沿いの集落で、この集落には魅力的なところがいっぱいあります。

ブルーベリー農園

まず、下川よい子さんが丹精込めて育てている「ブルーベリー農園」があります。今年はもうシーズンが終わりましたが、シーズン中（7月～8月）はブルーベリー狩りに観光バスや地元の人たちが来てにぎわってます。

次に向野から大利に通っている農道があります。この農道から見える風景はとても絶景です。田園風景が広がり、四季折々に色彩を変えとても心和みます。

岩屋の風車も見える

農道から釜伏山を望む

達人がつく

今回の達人

「源氏車」板長
佐藤（さとう）　晋（しん）さん（43歳）

●プロフィール
むつ市出身。地元の高校を卒業後、札幌の料理屋で5年間修行。オーストラリア、ロシアの日本食レストランで働く。平成5年に帰国し、お母さんの営む「源氏車」で板長となる。魚の仲卸も行っていて、鮮度抜群の魚を使い美味しい和食料理を創る。

東通沖で捕れた真イカを使った 真イカ丸ごとミンチ鍋（4人分）

〈材料〉（4人分）
真イカ／4杯、鶏がらスープ／800cc、生卵／1個、ニラ／1束、油揚げ／1枚、ねぎ（みじん切り）／1本、生姜／すりおろし小さじ半分、片栗粉・塩・醤油・コショウ／適量

〈作り方〉
①皮をむいたイカと、ゲソ、イカスミ、イカのふ（いかごろ）を全部ミンチにします。
②ミンチに生卵、片栗粉、ねぎ、すりおろした生姜、塩、醤油を入れて良く混ぜます。
③鶏がらスープに塩とコショウで味をつけます。
④スープに①のイカミンチを丸めて入れ、あとで約1cmに切ったニラと輪切りにした油揚げを入れて出来上がり。

達人のワザ　真イカは「スミ」や「ふ」を入れることでコクが出ます。ぜひ試してみて下さい。

写真は特派員が自ら撮影したものです。

東通村向野在住
しもかわ　ふみよ
下川　史代さん（26歳）

ここからは岩屋の風力発電の風車や、釜伏山が見えウォーキングやジョギングコースとして利用している人もいて、天気の良い日は本当にきれいでお薦めの絶景ポイントだと思います。

もう一つは、県道沿いの桜並木です。向野の小さな集会所の前の県道沿いに桜並木があり、春は車からもきれいに見れます。桜の幹もかなり太いので、この地区の方々が何十年か前に植えたのだろうと思います。今は葉も落ちていますが、桜のシーズンはとてもきれいです。春になるのを心待ちにしています。

この様に向野にはいいところがたくさんあります。みんなにもっと向野を知ってもらえるといいな～と思っています。

紅葉した県道沿いの桜並木

大昔から伝わる「地蔵様」

東通村下田屋在住
みやもと　ひさお
宮本　久男さん（55歳）

下田屋地区で、昔から行われている「地蔵様」について地区のおばあちゃんに聞きました。地元では「じんじょっこ」または「じんじょう様」と言われ、毎月24日、当番の家で行われてきました。「いつごろからですか」の問いかけにすぐ答えが返ってきました。「むがしから」…分かりやすい答え。

昔は各自が「お参り銭」といって、20円を持って集まったそうです。その昔は、10円の時もあったそうです。

当番は部落を「左回り」で回るようにして決めたそうです。

「じんじょっこ」を行う場所は、集会所、または、当番にあたっている方の自宅といった具合に当番の方の都合で決めるといったあんばいです。

「たむげっちょ（捧げる）」「よばえるが（ご馳走になる）」といって宴会がはじまるそうです。ご馳走を食べ、お話をして、飽きるまでつづくそうです。おばあちゃん方の「ストレス解消の集まり」ともとれます。

今回の情報は、橋本ちよばあちゃんに伺いました。

地蔵様

橋本ちよさん

る　簡　単　料　理

東通近海の平目で創る 平目の包揚げ 味噌クリームチーズかけ（4人分）

〈材料〉（4人分）
平目のおろし身／1枚、ぎょうざの皮／8枚、白味噌／50g、クリームチーズ／50g、白ワイン／20cc、大葉／8枚、小麦粉・塩・コショウ／適量

〈作り方〉
①平目をぎょうざの皮の長さに切り、塩、コショウで味付けして15分くらい置きます。
②鍋に白味噌とクリームチーズを入れ、弱火で混ぜ合わせ、白ワインで適度にのばしソースを作ります。
③平目に小麦粉をつけ、ぎょうざの皮に大葉を敷き、平目を巻きます。
④180度くらいの油で、きつね色になるまで揚げ、半分に切ります。
⑤④を器に盛りつけ、②の味噌クリームチーズをかけて完成。

達人のワザ　平目のほか、鱈やカレイなど、白身魚なら何を使っても美味しくできます。

地元の皆さんは
すぐわかるよね

① 1回　○と○○

② くすぐったい　○ち○○い

③ 沸騰する にえたぎる　○だ○

④ しばる くくる　か○○○

⑤ 賢い　○○し○

問題

■東通村（下北地方）には、いろいろな方言が残っているよ。
右記の①～⑦までの方言を考えてネ。
○に入る言葉を並べかえると、今回も東通村のある集落名になるよ。
さて、どこでしょう?

応　募　方　法

★ 折り込みの応募ハガキにクイズの答え、氏名、年齢、住所、電話番号そして当広報誌「しおさい」についてのご意見、ご感想をお書きの上、ご応募ください。正解者の中から抽選で10名様へ素敵な景品をプレゼントいたします。なお、当選者の発表は景品の発送をもってかえさせていただきます。
〈応募締め切り／平成21年2月28日（土）消印有効〉

前回（vol.5H20年6月発行）の答え
はやかけだいらでした。

① 気弱な。度胸がない　う す け ね
② うに　か ん じ え
③ 体の芯から冷える　す ぐ だ ま る
④ 能率があがる　は が い ぐ
⑤ お手玉　あ や こ
⑥ 勤勉で熱心によく働く　ま め し い
⑦ かわいげがない　い ら し ぐ ね

多数のご応募ありがとうございました。

読者からの声

vol.5に皆さまからたくさんのご意見、ご感想をお寄せいただきました。
大変ありがとうございました。

●ふだん使っている言葉でもあらためてクイズとなるとなかなか、なまりが強くて自分で言葉にして笑ってしまいました。料理もマネして作ってみたいと思います。これからも楽しみにしています。（蒲野沢在住　Gさん）

●「しおさい」が届くのが楽しみです。毎回知っている顔が写っていて何年も会っていないけどいつも変わらず元気にしているなあ、私も楽しみを見つけてがんばらなきゃと元気を貰っています。（岩屋在住　Sさん）

●今回も、いつものようにペンを持ちザ・方言クイズから。1ページ目を開いたら、あれ「おべだ顔ばりだじゃ」「これどっからうつしたんだべな」私の住む砂子又でした。次も楽しみにしています。（砂子又在住　Sさん）

●いつも楽しく見ております。ファイトわんぱくの小田野沢小を見て、最後の小田野沢小学校の生徒としてがんばってほしいと思いました。地元の特集があり楽しく読めました。（小田野沢在住　Tさん）

●東通村に居住して2年半ですが、まだまだ「わからない」「知らない」ことばかりで「しおさい」を愛読することによって少しずつ勉強しています。方言も勉強になります。（尻屋在住　Mさん）

●「こんにちは元気さん」では、彩書家の手間本北栄さんの「彩書」がすごく見てて気持ちが落ち着きます。「彩書」はこんなにおもしろいアートだと実感しました。手間本さん頑張って下さいネ! 次号の「しおさい」楽しみにしています。頑張って下さいネ!（尻屋在住　Sさん）

●村内にも奥のふかい伝説がありますね。ふるさと見聞録と特派員レポートに心うたれました。東通に生まれても何も知らない事ばかり。出来るなら歩いてみたいです。（白糠在住　Iさん）

●私は地元の人間ではないのですが、勤務地が東通村という事で、初めて「しおさい」を拝見させていただきました。地元のふるさとを地元で守る、伝える。とても勉強になりました。次回の「しおさい」も楽しみにしております。（老部勤務　Kさん）

広報誌「しおさい」についてのご意見・ご感想をお待ちしております。

編集後記

今回の第6号より担当が変わりました。今まで発行した広報誌「しおさい」を読み返してみて、各集落の特色や元気に活躍する方々、笑顔いっぱいの子どもたちを、ひとりでも多くの村民の皆さまにお伝えできたらうれしいと、あらためて感じているところです。

今後も継続して、東通村のすばらしさを再発見・再認識し、村民の皆さまと共有できるよう広報誌「しおさい」を作成してまいりたいと考えております。前任者同様、よろしくお願いいたします。

●発行

東北電力(株)東通原子力発電所広報課

〒039-4293 青森県下北郡東通村大字白糠字前坂下34番4
TEL0175-46-2225・FAX0175-46-2227

誌名「しおさい」について
★東通村で絶えることなく聞こえる心地よい波の音（しおさい）のように、皆さまの心に末長く心地よく響き続ける広報誌でありたいという思いを込めています。

PR SOY INK　植林木
この冊子は、環境にやさしい「植物性大豆油インキ」「植林木」を使用しています。